

〈研究成果の紹介〉

## 日持ちに特徴のあるシクラメン生産の可能性

農業研究所 経営・植物工学研究課

### 1. 成果の内容

シクラメンの消費拡大には、日持ちに特徴のある製品を消費者に提供することが一つの方策と考えられます。そこで、栽培方法と日持ちとの関係を調べ、日持ちに特徴のあるシクラメン生産について検討しました。なお、今回分析した日持ちとは、贈答用を想定した初期の品質が維持された期間と、家庭用を想定した観賞できた全期間の2種類です(図1)。また日持ちの調査については、光や温度環境が同じ場所に栽培方法の組み合わせを調べた複数の生産者のシクラメンを置いて、各鉢の劣化状況と日持ち期間を調べました。

分析の結果、日持ちに影響した栽培要因は、鉢用土の種類、出荷1ヶ月前の温度設定、夏期の遮光率などでした(図2)。しかし、贈答用を想定した初期の品質が維持された期間と、家庭用を想定した観賞できた全期間では、影響する栽培方法の組み合わせは異なりました。

これらの結果は、生産者が日持ちの特性に応じた栽培方法を採用することにより、贈答用や

家庭用に適した日持ちに特徴のあるシクラメンを生産できる可能性があることを示します。

### 2. 技術の適用効果と適用範囲

用途に応じた日持ちの特徴を消費者に示すことができれば、消費者の日持ちに対する満足度は向上すると考えられます。このような日持ちの良いシクラメン生産に関心のある生産者の参考になります。

### 3. 普及・利用上の留意点

ここで示した結果は、シクラメンにとって好適な環境下に設置した日持ちの調査に基づくもので、高温や光不足といった劣悪環境下では影響要因は異なる可能性があります。また、実際に日持ちに特徴のあるシクラメンを生産する場合には、ここに示した影響要因以外の栽培技術や施設的环境条件も関係することから、他の要因とも合わせた総合的な検討が個々のケースで必要になります。

(梶谷 斉)



図1 分析のために設定した日持ち期間の例示。贈答用は①～②、家庭用は①～④を日持ちした期間として分析した。

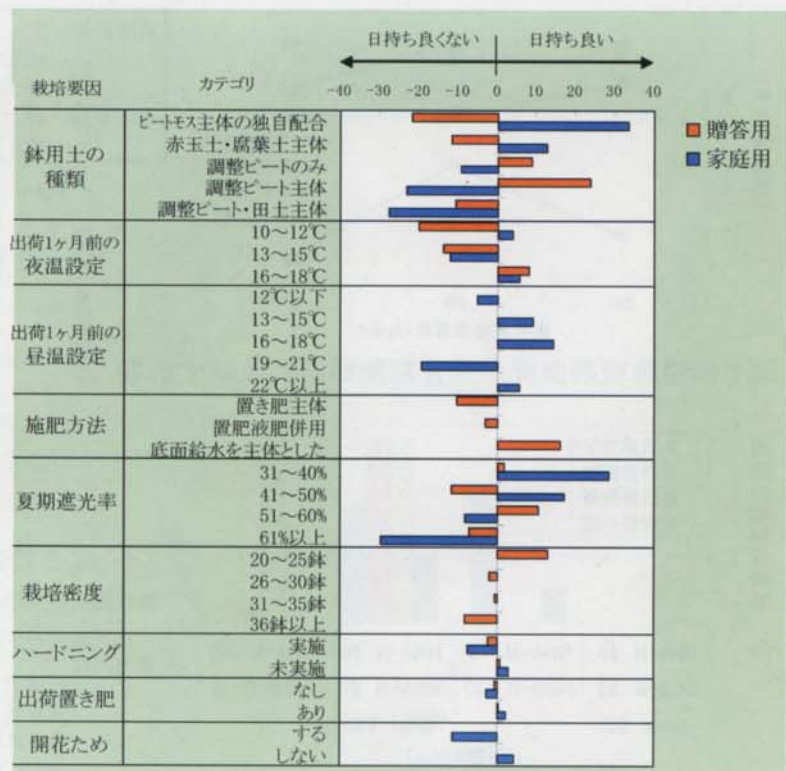


図2 日持ちに関する栽培要因